

北海道美唄尚栄高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) 資格取得を充実させ、進路実現を目指す。	農業技術検定は、計画的に学習し、意識の高揚を図ることができた。食と農に関わる知識・理解を深めることについては、地域の農業経営者や関係機関との協力により、適宜実施出来た。	校外への実習活動等は、日程を調整することがやや難しかったが、学習機会を増やしていくようにしたい。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) SDGsを意識させ、食の安全と食品ロス等の問題を解決出来る教育の充実を図る。	科目「農業と環境」や「食品製造」の授業において、食料生産や、SDGsの考え方を積極的に取入れた授業を展開した。	環境問題や食糧生産に係る学習機会を積極的に取入れるため、外部講師などの専門家に講演などを依頼することを検討する。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) 美唄市近郊の農産物を活用した食品開発を地域と一体となり人材の育成を図る。	地域の農産物である米粉や大豆を使用した食品の商品開発に取り組み、地産地消に貢献することの大切さを学ぶことが出来た。	関係機関や地元小学校等と連携した活動を行う。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) 美唄市近郊の農産物を活用した食品開発を地域と一体となり人材の育成を図る。	小・中学校と連携し、体験入学等の学校開放時に、農業学習について理解が深められるよう取り組むことが出来た。	関係機関や地元小学校等と連携した活動を行う。	5
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) 食品廃棄物や食品ロスに関心を持ち、SDGsの考え方を取入れた授業を実践する。	科目「農業と環境」や「食品製造」の授業において、未利用資源や、SDGsの考え方を積極的に取入れた授業を展開した。	環境問題や食糧生産に係る学習機会を積極的に取入れるため、外部講師などの専門家に講演などを依頼することを検討する。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 地域資源である農産物を商品ブランド化するための研究に取り組む。	美唄市と連携し、食品の商品開発に取り組むことが出来た。	食品開発が、商品ブランド化になるよう継続する。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) ICTを活用し、食品製造・販売等の知識・技術を深めるために、タブレット端末等を積極的に活用する。	タブレットなどを積極的に活用し、情報を活用することが出来た。	食品製造や販売実習等で、積極的にICTが活用できるよう工夫する。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 地震や火災等の災害に対して、防災意識を高めるための取り組みを進める。	防災意識を高めるため、防災訓練に積極的に取り組み、実習などで火を取り扱う場合は火災に対して十分に注意するなど意識の高揚につなげることが出来た。	地震や火災に対して、意識を高めるよう啓発する。	5